

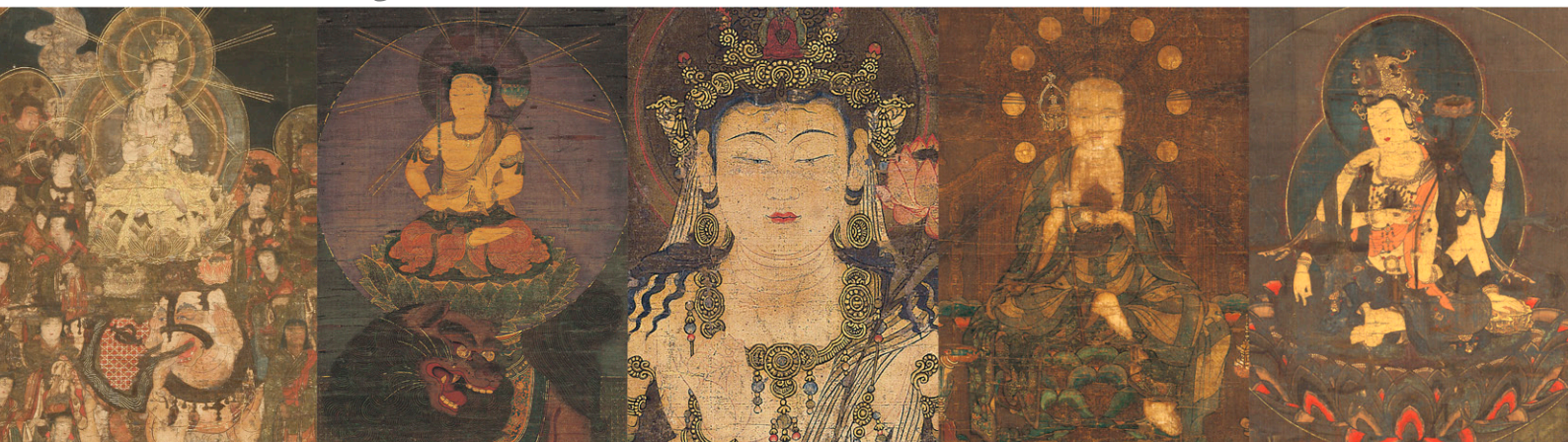
Bodhisattvas: Symbols of Salvation and Support

コレクション展

救いとやすらぎのほとけ

菩薩

ぼさつ



根津美術館

NEZUMUSEUM



2015年

3月7日(土) ~ 4月6日(月)

【休館日】毎週月曜日、ただし4月6日(月)は開館

菩薩とは、サンスクリットの Bodhisattva の音写「菩提薩埵」に由来し、この語は「悟り+生けるもの」を意味します。煩惱や誘惑に打ち勝ち悟りを得た釈迦のように、初期の仏教は、悟りを得ようと修行する僧たちのものでしたが、紀元後1世紀頃になると、自分だけでなく他者をも悟りに導く存在としての「菩薩」の行いを説くことで、仏教の信奉者は飛躍的に広がりました。悟りを約束された身であるにもかかわらず、あえて人間界に降りてきて、人間の苦樂に向き合い、救済の手をさしのげる菩薩を信奉するようになったのは、当然のことといえるでしょう。經典に説かれるさまざまな菩薩のなかで、聖観音、千手観音、不空罽索観音など多くの種類のある観音菩薩、地獄に堕ちた者ですら救ってくれる地藏菩薩、また釈迦如来の両脇にひかえる文殊菩薩や普賢菩薩は、もつともポピュラーなほとけたちです。

「救いとやすらぎのほとけ—菩薩」展では、根津美術館が所蔵する仏教美術コレクションから、菩薩を表した奈良時代〜江戸時代の彫刻・絵画、約40件の優品をご覧ください。母のような、慈愛に満ちた、ときに厳しい眼差しを投げかける菩薩の表現には、日々の苦難から救われたいと願う、人間の切なる思いが込められています。

画像右より

七星如意輪観音像(部分) 日本・南北朝時代 14世紀 根津美術館蔵
壬生寺地藏菩薩像(部分) 日本・鎌倉時代 14世紀 根津美術館蔵
重要美術品 聖観音像(部分) 日本・鎌倉時代 13世紀 根津美術館蔵
文殊菩薩像(部分) 日本・鎌倉時代 14世紀 根津美術館蔵
普賢十羅刹女像(部分) 日本・鎌倉時代 13世紀 根津美術館蔵

救いとやすらぎのほとけ—菩薩



重要美術品
観音菩薩立像 1軀 銅造鍍金
日本・飛鳥時代 7世紀 像高23.4cm
根津美術館蔵

右手をあげ、左手に水瓶をもつポーズは、上代の観音像にしばしばみられる。子供のような顔立ちに愛らしく、体部を飾る装身具は大ぶりである。



菩薩立像 1軀 木造彩色
日本・平安時代 11~12世紀 像高102.2cm
根津美術館蔵

院政期の王朝人は、穏やかな面立ちで、体を包む衣を薄く刻む、優美な仏像を好んだ。11世紀に定朝が完成した和様彫刻の典型作。



地藏菩薩坐像 1軀 木造彩色
日本・鎌倉時代 13世紀 像高52.5cm
根津美術館蔵

左手に宝珠、右手に錫杖をとる僧形は、地藏菩薩の尊容。善悪の業によって輪廻転生する六つの迷界におもむき、救済の手をさしのべる。



重要文化財
普賢十羅刹女像 1幅 絹本着色
日本・平安時代 12世紀
根津美術館蔵

白象に乗る普賢菩薩が、10人の羅刹女をしたがえ、『法華経』信奉者を守護する姿を表す。優しい面差しには、宮廷の女性たちの美意識が反映されている。



岩上観音図 1幅 絹本墨画淡彩
日本・南北朝時代 14世紀
根津美術館蔵

補陀落山に住む観音菩薩と、仏法を問う善財童子を描く。中国・元代の白描画に倣い、細やかな墨線を重ねて描かれている。



書写山如意輪観音像 1幅 絹本着色
日本・室町時代 15世紀
根津美術館蔵

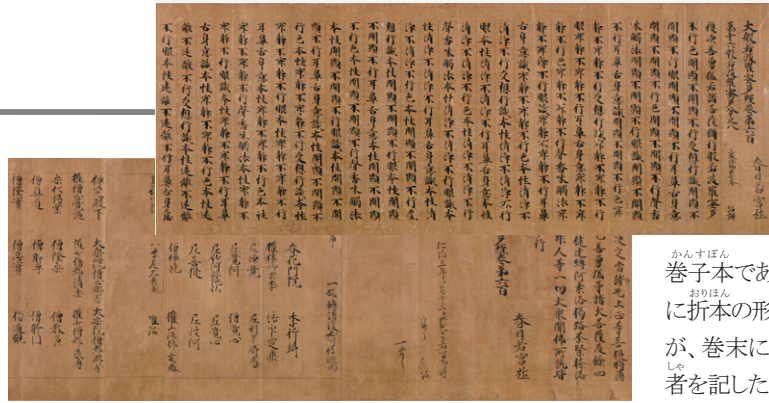
平安時代の天台僧性空は播磨書写山にこもり、桜の木で如意輪観音を刻んだ。室町時代に制作された本図は、尊像と肖像を組み合わせた珍しい作例。

同時開催

展示室3

「春日若宮大般若経・春日厨子」

尼浄阿(生没年不詳)は、縁の深かった撰関家の女性たちや自身の親族の菩薩を弔うために、14年の年月をかけて大般若経600巻を書写し、奈良・春日社の撰社若宮社に奉納しました。鎌倉時代前半にさかのぼる一筆経とそれを納めた春日厨子の存在は貴重で、各巻の奥書や厨子に刻まれた記録も注目されます。厨子は、2年間の修理を終え、初めての披露となります。



春日若宮大般若経 540帖+1巻 浄阿筆 紙本墨書
日本・鎌倉時代 寛喜元年(1229)~仁治3年(1242) 根津美術館蔵



春日厨子 1基
日本・鎌倉時代 寛元元年(1243)および3年(1245)銘 根津美術館蔵

卷子本であった写経は、後に折本の形式に改装されたが、巻末に80名超える回向者を記した巻第六百は、再び卷子装に改められた。

厨子の内部には、各10巻を収納する経箱60個を収める。扉の内側には浄阿が写経を行った経緯、屋根板の裏側には写経転読のための寄進に関する銘が刻まれている。



展示室5

「北野天神縁起絵巻」(根津本) I

政争に破れた菅原道真が怨霊となり、天神として北野社に祀られた経緯と北野社の霊験を絵解きした6巻の絵巻。巻第1~3を展示する。



重要美術品
北野天神縁起絵巻 巻第2(部分)
日本・室町時代 15世紀
根津美術館蔵

無実の罪で大宰府への配流が決まった道真は、庭の紅梅との別れに「東風吹かばにほひをこせよ梅の花……」という和歌を詠んだ。

展示室6

「暮春の茶の湯」

暮春は陰暦3月の異称で、春の終わりの季節です。散り残った桜の風雅や、青柳の清々しさを愛でる茶道具約20点の取合せ。



柳時絵棗 1合
日本・江戸時代
18世紀
根津美術館蔵

早春の象徴である芽張り柳ではなく、青々とした葉をつけた生命力あふれる柳の木を棗の身から蓋にかけてあらわした華やかな作品。



安南染付花唐草文茶碗
銘 福之神 1口
ヴェトナム 17世紀
根津美術館蔵

安南の茶碗に特有の、腰や高台が高く作られた厚手の茶碗。胴には花唐草、その下部には連弁文がぐるりと描かれている。

関連プログラム

【講演会1】 「救いとやすらぎのほとけ 一菩薩」
日時 3月14日(土) 午後2時 - 3時30分
講師 白原 由起子 (根津美術館 学芸第一課長)

【講演会2】 「女院と尼僧の鎌倉仏教史」
日時 3月28日(土) 午後2時 - 3時30分
講師 近本 謙介氏 (筑波大学 准教授)

(申し込み方法)

*会場はいずれも根津美術館 講堂(定員各130名)

往復葉書に、参加を希望される催事名(「講演会1」または「講演会2」)と住所・氏名(返信面にも)・電話番号を明記の上、〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1 根津美術館「菩薩」展講演会係宛にお申込みください。

*「講演会1」は2月28日(土)、「講演会2」は3月14日(土)締切(当日消印有効)(定員各130名)

*参加希望者1名1講演会につき、1枚の往復葉書でお申込みください。

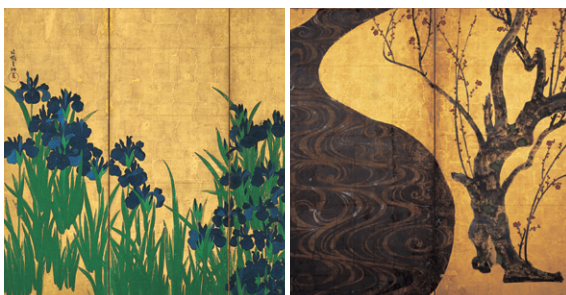
【スライドレクチャー】 担当学芸により、展示解説を行います。
日時 3月20日(金) 午後1時30分から約60分 展示室3「春日若宮大般若経・春日厨子」
3月27日(金) 午後1時30分から約60分 展示室5「北野天神縁起絵巻」
*会場はいずれも根津美術館 講堂(先着130名)

※講演会・スライドレクチャーとも聴講は無料ですが、入館料をお支払いください。

開催概要

- 【展覧会名】 コレクション展「救いとやすらぎのほとけ一菩薩」
- 【主催】 根津美術館
- 【開催期間】 2015年 3月7日(土)～4月6日(月)
- 【開館時間】 午前10時～午後5時 [入館は午後4時30分まで]
- 【休館日】 毎週月曜日、ただし4月6日(月)は開館
- 【入館料】 一般1000円(800円) 学生800円(600円)
*()内は20名以上の団体料金、中学生以下無料
- 【前売券】 一般900円 学生700円
- 【アクセス】 2015年1月10日(土)～2月22日(日)「動物礼讃 一大英博物館から双羊尊がやってきた!」展開催期間中、根津美術館ミュージアムショップにて販売
地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線(表参道) 駅下車 A5出口(階段)より徒歩8分、B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベータまたはエスカレーター)より徒歩10分
- 【住所】 〒107-0062 東京都港区南青山 6-5-1
- 【お問合わせ】 TEL 03-3400-2536 (代表)
- 【ホームページ】 <http://www.nezu-muse.or.jp> (日本語・English)
- 【携帯サイト】 <http://www.nezu-muse-app.jp> (日本語・English)
*携帯サイトは機種により閲覧できない画面があります。
- 【専用アプリ】 「App Store」・「Google play」から根津美術館を検索してダウンロード

次回展



尾形光琳300年忌記念特別展

燕子花と紅白梅 — 光琳デザインの秘密 —

2015年 4月18日(土)～5月17日(日)

尾形光琳の筆になる2点の国宝「燕子花図屏風」と「紅白梅図屏風」を一堂に展観します。

左：国宝 燕子花図屏風 尾形光琳筆 日本・江戸時代 18世紀 根津美術館蔵
右：国宝 紅白梅図屏風 尾形光琳筆 日本・江戸時代 18世紀 MOA美術館蔵

【リリース・広報のお問い合わせ】

担当： 所、村岡、羽田 TEL:03-3400-2538 (直) FAX:03-3400-2436 MAIL:press@nezu-muse.or.jp